

1、現状の説明

(1)社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

2014 年度以降の「社会との連携・協力に関する方針」を、次のとおり定めている。

【社会との連携・協力に関する方針】

本学は、教育・研究を通して、広く社会との連携を図り、以下の方向性をもって社会に貢献する。

- (1) 本学の学術資源を生かした社会貢献、国際貢献に取り組む。
- (2) 本学の教育研究の成果を基にしつつ、生涯学習の機会を社会に提供する。
- (3) 本学の教育活動を公開・提供する取り組みを推進する。
- (4) サービスラーニングを取り入れた教育プログラムを開発し推進するための準備室を、社会学科に設け、教育と地域の連携を図る。
- (5) 学内の社会連携・社会貢献の取り組みが相乗的に効果を上げることをめざし、学内横断的な会議体を設置する。

方針の策定については、地域連携・社会貢献に中心的に関わる執行部（学監・副学長、研究・国際交流担当副学長、教育研究支援部事務部長）で検討し、大学運営会議で決定した。

以上の方針は、教授会および、部課長会を通じて、全教職員が共有し、更に本学 HP で一般に公開している（資料 8-1 本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」）。

本学における地域連携・社会貢献活動には、短期大学部を含め、複数の学科、複数の委員会、事務部門が関与している。これらの活動を集約するため、活動に関わる教職員により構成する会議体を設置する予定である。ここで活動を集約し、更に適切性についての検証の責任主体とする。地域連携・社会貢献に係る各組織、各事務局が、当該年度の活動について、方針に基づいた活動ができているか否か、次年度に向けた改善点の有無等を検証し、その内容を会議体に集約する。改善が必要な事項については、研究・国際交流担当副学長および学監・副学長を通じて、各事務局、関係委員会に指示を出すこととする。

また 2015 年度に学生が主体的に地域と関わる正課授業を、社会学科に新設することをめざして、準備室を 2014 年 4 月に開設した。

(2)教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

- ① 「仏教的教養」を柱とした生涯学習機会の拠点となることをめざし、多様な学習ニーズへの対応を図るため、本学教員の研究成果に基づいた学術公開講演会等を毎年開催している。2013 年度には、学術的公開講演会として親鸞聖人御誕生会、大学報恩講、親鸞聖人御命日勤行、開学記念式典、夏期の 3 日間に連続して行う暁天講座など本学宗教行事と併せて 10 回開講し、参加人数は延べ 2,444 人であった（資料 8-2「式典参加者数一覧（2012 年度～）」）。
- ② 「人間学」を柱とした知的・人的資産を活用し、全国の同窓会支部と連携した全国縦断型の生涯学習機能を充実させるため、全国の同窓会支部を中心に講座「夏季八十講」を開催している。2013 年度には 69 回の開講を実施した（資料 8-3「同窓会支部総会および夏季八十講 2013 年度」）。
- ③ 大学の専門知識や経験を地域生活に密着した問題に活かすために、教育・心理学科の

第8章 社会連携・社会貢献 【大谷大学】

教員および学生を中心に、近隣小学生を対象に公開講座「おおたにキッズキャンパス」を開催している。2013年度は17回13のプログラムを実施し、延べ643人の児童および保護者・教員の参加があった（資料8-4「おおたにキッズキャンパス取組状況」）。また、博物館学課程との連携事業として、博物館学課程実習生展の開催並びに学生による展示ガイドを実施した。更に人文情報学科との連携事業としてiPadによる展示ガイドを制作している。

この他、本学教員を講師として「教員免許状更新講習」を開講し、2013年度は18回16プログラムを実施して、987人の参加を得た（資料8-5「教員免許状更新講習実施状況」）。更に、公民連携事業として、京都府総合教育センター主催の講座への講師の派遣を実施している（資料8-6「京都府総合教育センター主催講座派遣状況」）。

学術交流協定による共同研究および教員派遣先は12か国、21大学となっている（資料8-7「学術交流協定校」）。

また、自治体や関連教育機関との連携により実施している幼稚園、小・中・高等学校への教育支援ボランティアについては、2013年度は、教員をめざす学生延べ247名がそれぞれの学校において授業運営などのサポート活動に参加している（資料8-8「各種学校ボランティア参加状況」）。

更に、「人間学」を学ぶ本学学生による東日本大震災支援ボランティアは2011年6月から14回実施し、延べ325人が参加している（資料8-9「東日本大震災復興支援 大谷大学教職員有志ボランティア活動ー共に歩み隊ー」）。

- ④ 本学の生涯学習機能を強化するために、博物館における特別展、本学図書館の一般開放、生涯学習講座を開催した。博物館における展示については、2013年度は春展・秋Ⅰ展・秋Ⅱ展・冬展の4企画展と1回の特別展を行い、会期日数172日、来場者数は11,202人であった（資料8-10「大谷大学博物館入館者内訳（2003年～）」）。図書館の一般への開放事業については73名に利用証を発行し、本学蔵書を利用いただいている（資料8-11「利用統計2013年度」2-4 利用証発行数）。生涯学習講座については2013年度、前期・後期の開放セミナーで6講座、また前期・後期の紫明講座で7講座、更に博物館セミナー、京カレッジ講座、地域交流事業、学術講演会等併せて延べ70回（18講座）開催し、参加人数は延べ696人であった（資料8-12「大谷大学エクステンション事業 実績報告 2013年度」）。
- ⑤ 国際貢献活動としては、ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院と協力して、日越仏教語事典編纂事業の実施、ハンガリーのエトヴェシ・ロラード大学への、教員派遣による日本仏教に関する講座のサポート等の活動を実施している（資料8-13「ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との学術交流に関する協定書」、資料8-14「エトヴェシ・ロラード大学との学術交流に関する協定書」）。

2、点検・評価

●基準8の充足状況

本学が定めている「社会との連携・協力に関する方針」のもと、教育研究の成果を基にした生涯学習機会の提供、教育活動の公開・提供、学術資源を生かした社会貢献・国際貢献に取り組むとともに、教育プログラムを開発し推進するための準備室の設置等、将来に

向けての準備活動にも取り組んでおり、同基準をおおむね充足している。ただし、方針の(5)に定めている「会議体」について、現在のところ設置ができておらず、この点に課題が残る。

①効果が上がっている事項

(学術資源を生かした社会貢献、国際貢献)

方針の明確化によって、社会連携の機会を逸することなく、ベトナムでの学術協力や、日本仏教に関する講座への教員派遣など、本学の学術資源を生かした国際貢献につながる成果を挙げている。

(生涯学習の機会提供)

生涯学習講座や、博物館等の各種公開講演会、宗教行事とともに開講する講演会、教員免許状更新講習等の取組は、本学の教育研究の成果を基にしつつ、生涯学習の機会を社会に提供する取組として評価できる。特に、全国の同窓会組織と共同で実施している「夏季八十講」と、全国7カ所(2013年度)で開催した教員免許状更新講習は、地域的な広がりという点においても、教育研究の成果を広く社会に還元する活動となっている。また、暁天講座は、早朝開催にもかかわらず多数の受講者を得ており、地域に根差した講座となっている。

(教育活動を公開・提供する取組)

教育・心理学科と教職支援センターが中心になって開催する地域交流イベント「おおたにキッズキャンパス」は、地域の小学生を大学に招き入れるとともに、小学校、幼稚園の教員をめざす学生との交流を図るといふ、相互に価値を提供し合える体験型のイベントとして、また学生を通して本学の教育活動を公開・提供する取組となっている。更に、学校ボランティアは、2013年度には延べ247名が行っており、実績となっている。

また、学生が主体的に地域と関わる正課授業を社会学科に新設するための準備室を2014年4月に開設した。

②改善すべき事項

部署、学科、学生・教職員それぞれのレベルで、多様な社会貢献、地域貢献の活動を展開しているものの、それらを集約する会議体が現時点では確立していない。

3、将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

(学術資源を生かした社会貢献、国際貢献)

学術活動による国際貢献や社会還元は、それ自体を目的にしているものではないが、様々な研究機会や研究活動が、国際社会や地域社会に貢献し、成果を還元できるような枠組みを維持していく。

(生涯学習の機会提供)

生涯学習の機会提供においては、規模の拡大ではなく、大学の持つ学術資源の提供という視点において、独自性を重視し、現状の質の高さを維持していく。

(教育活動を公開・提供する取組)

地域連携については、教育・心理学科の実績を他学科に拡大していく。

第8章 社会連携・社会貢献 【大谷大学】

②改善すべき事項

方針に明らかなように、多様な社会貢献、地域貢献の活動を、大学として組織化するための会議体を2014年度内に設置する計画である。

4、根拠資料

資料 8-1 本学 HP 「教育研究を始めとする各種方針」(既出 (3-1))

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u.html>

資料 8-2 「式典参加者数一覧 (2012年度～)」

資料 8-3 「同窓会支部総会および夏季八十講 2013年度」

資料 8-4 「おおたにキッズキャンパス取組状況」

資料 8-5 「教員免許状更新講習実施状況」

資料 8-6 「京都府総合教育センター主催講座派遣状況」

資料 8-7 「学術交流協定校」

資料 8-8 「各種学校ボランティア参加状況」

資料 8-9 「東日本大震災復興支援 大谷大学教職員有志ボランティア活動ー共に歩み隊ー」

資料 8-10 「大谷大学博物館入館者内訳 (2003年～)」(既出 (7-19))

資料 8-11 「利用統計 2013年度」(既出 (7-13))

資料 8-12 「大谷大学エクステンション事業 実績報告 2013年度」

資料 8-13 「ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との学術交流に関する協定書」

資料 8-14 「エトヴェシ・ロラード大学との学術交流に関する協定書」